



2020年2月28日

各 位

会 社 名 株式会社ストリームメディアコーポレーション
代表者名 代 表 取 締 役 社 長 崔 官鎔
(証券コード 4772 JASDAQ グロース)
問合せ先 取締役経営企画本部長 山田政彦
(TEL : 03-6809-6118)

中期経営計画の提出等について

当社は、2020年12月期～2022年12月期に係る中期経営計画を策定いたしましたので、当該中期経営計画を記載した資料を提出いたします。

なお、当該資料について、当社のホームページに掲載いたします。

URL : <https://www.streammedia.co.jp/ir/>

掲載日：2020年2月28日

【添付資料】

2020年12月期～2022年12月期 中期経営計画

以上



2020 年 12 月期～2022 年 12 月期 中期経営計画

1. 今後 3 か年の中期経営計画

(1) 当中期経営計画提出時点における前事業年の総括

当社事業を取り巻く環境といたしましては、CS・BS デジタル放送の契約者数は依然として減少傾向にある一方で、衛星放送の新 4K 8K 化によるコンテンツの高画質化やユーザーの嗜好性とライフスタイルの変化に応じたビンジ・ウォッチング等の視聴スタイルの多様化に対応する OTT（ネット配信による動画配信サービス）の拡大、2020 年における地上波とインターネット上での同時配信サービスや見逃し配信サービスの実施など、多様な展開を見せております。

このような経営環境の中、当社は以下のとおり事業を展開してまいりました。

【ライツ&メディアコミュニケーション事業】

イベント・マネジメント事業では、残念ながら大型案件は無かったものの、RAIN の約 1 年ぶりのファンミーティング&ミニライブ『RAIN 2gether2019 Fanmeeting in Japan』や、キム・ヒョンジュンの初めてのソロクリスマスファンミーティング『Kim hyunJoong Japan Fanmeeting2019～ChristJoongs』など、韓国トップアーティストのイベントを開催し好評を得ました。ファンクラブ事業では、新たに 3 件の運営業務の受託を機に、業務の効率化、新規会員獲得及び既存会員の継続率向上に努めてまいりました。版權事業では、人気コンテンツの番組販売及び商品化権販売等が順調に推移し、当社の業績に貢献いたしました。

以上の結果、当事業の業績は、売上高は40億54百万円（前年同期比16.5%減）、セグメント利益は4億92百万円（前年同期比34.1%増）となりました。

【放送事業】

放送事業では、自社TV局であります「KNTV」、「DATV」、リニア配信Kchan! 韓流TV」の3チャンネル運営体制で臨み、継続的且つ安定的な視聴料収入の確保と販路拡大を図ってまいりました。

「KNTV」では『悲しいとき愛する』、『ザ・バンカー』などの日本作品のリメイク版が話題となりました。また、今やワールドスターとなった防弾少年団の名場面集

『BTSバラエティ年代記』や史上初となる5夜連続放送の韓国年末授賞式『2019 SBS芸能大会』、『2019 MBC芸能大賞』、『2019 MBC演技大賞』、『2019 SBS演技大賞』を日本初放送いたしました。「DATV」では、開局10周年を記念した『History of ペ・ヨンジュン』、総製作費100億円をかけた中国の大人気スターであるヤン・ヤン主演の

ファンタジースペクタクル時代劇『神龍<シェロン>－Martial Universe－』をテレビ初放送いたしました。「Kchan！韓流TV」では、日本に向けた日本初の音楽番組『Power of K Lab7』を毎月韓国ソウルより生中継して好評を得ました。また、4年ぶりの再始動となったFunky Galaxyの3人が美しい自然溢れる済州島で過ごすオリジナルリアルバラエティ『Funky Galaxyが行く！韓国チェジュ島ファンキーツアー』といった自社オリジナル番組も制作してまいりました。

利益面では、自社オリジナル番組制作に係る先行投資などで費用が嵩みました。

以上の結果、当事業の業績は、売上高は22億86百万円（前期比1.1%減）、セグメント利益は36百万円（前年同期比38.0%減）となりました。

【その他の事業】

その他事業では、売上高は1百万円（前年同期 89.0 減）、セグメント損失は0百万円（前年同期セグメント利益2百万円）となりました。

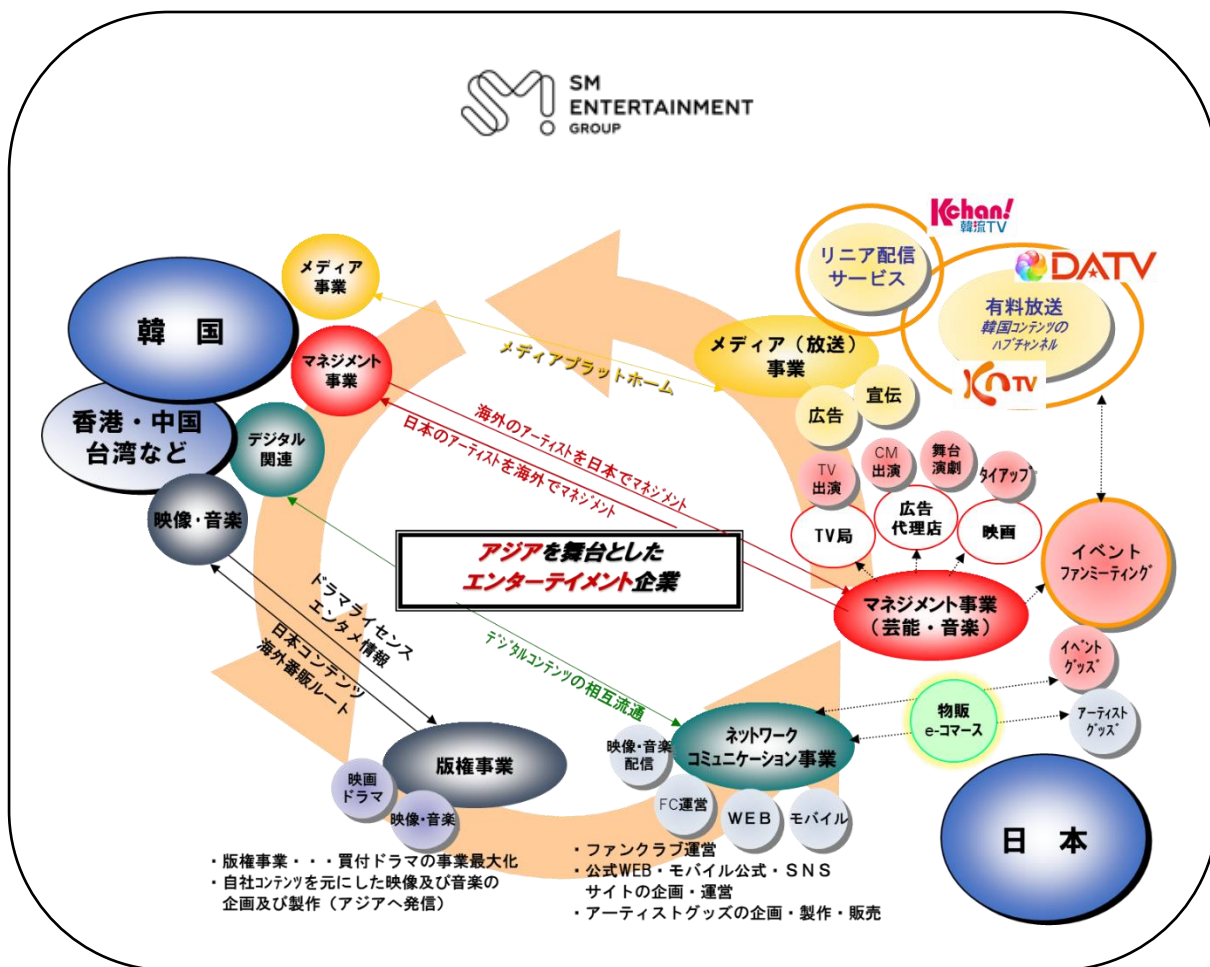
以上各事業の取り組み結果、当事業年度における当社の業績につきましては、売上高は前事業年度を下回ったものの、営業利益及び経常利益は前事業年度並みの水準を維持することができました。

なお、当社が保有する「その他有価証券」に区分される有価証券のうち1社（非上場／韓国）につきましては、投資時における事業計画の数値と実績値との乖離が大きく、事業計画に遅れが生じていると判断したため、2019年12月期の決算において投資有価証券評価損として5億10百万円を特別損失として計上いたしました。

これにより、当事業年度における売上高は61億13百万円（前年同期比13.4%減）、営業利益は71百万円（前年同期比3.1%減）、経常利益は73百万円（前年同期比1.0%減）、当期純損失は4億83百万円（前年同期当期純利益61百万円）となりました。

（2）中期経営計画の概要及び策定の背景

当社は、デジタルコンテンツを利用したサービスを携帯電話及びパソコン等、インターネットツールを通じて配信するデジタルコンテンツ配信事業で築いたノウハウを基盤として、エンタテインメント関連事業へとシフトし、ビジネスノウハウを活かして、日本・韓国のみならずアジア全体を舞台として日本からアジアに向け情報配信を行い、メディア（放送）、マネジメント、ネットワークコミュニケーション、そして版權事業で確固たるポジションを確立してまいりました。2018年より韓国最大手の芸能プロダクションであるSMエンタテインメントグループ傘下となり、既存事業で培ってきたアーティストマネジメントからファンクラブ・イベント・物販等の一気通貫での関連サービスに加え、新規事業のモバイルエンタテインメントコンテンツとプラットフォーム構築を推進し、当事業を新たな柱として成長させ安定した事業収益確保を目指しております。そして、各事業の相乗効果により新たなビジネスが創造できる機会とグループシナジーを創出することで事業基盤をより強固にしていきながら、市場とともに成長・発展していくことで、アジアを舞台とした総合エンタテインメント企業を目指しております。



① 放送事業の収益拡大・安定化及びサービスの拡充



当社において放送事業は、継続的・安定的に収益を確保できる基幹産業と位置付けており、当社の事業規模拡大のためには当該事業の収益力の改善が不可欠です。「KNTV」や「DATV」各々が持つ番組企画力、番組コンテンツ調達力、放送エリア拡大のための営業力が最大のシナジー効果を発揮できる体制を常に見直すことはもちろんのこと、既存のHP以外のメディアでの積極的な情報発信やSNSによる視聴者との双方向コミュニケーションによるニーズや視聴行動等の収集・分析を基に、視聴者の要望に先んじた番組コンテンツの提供やコアターゲットとなる世代に訴求する時間帯への移動等戦略的な番組編成に取り組むことで顧客満足度向上や潜在的な韓流ファンの掘り起こしを図ってまいります。また、引き続き韓流コンテンツ獲得をめぐるプラットフォーム間の競争が激化する中において、当社は定期的な公開収録や生中継番組をはじめとしたオリジナル番組の制作に注力する一方、韓国最大手の芸能マネジメント企業である SM エンタテインメントとの更なる連携強化によるノウハウや情報の共有、強力なコンテンツの確保、当社放送事業と連携したイベント開催等のシナジー効果を最大限に活かすことで収益改善を目指してまいります。

② ライツ&メディアコミュニケーション事業の収益拡大と安定化

ア) マネジメント事業の多角化とファンクラブ事業の強化

当セグメントにおけるマネジメント事業では、引き続き、継続的に様々な活動領域を持つ所属アーティストの拡充を図ることでコンテンツの選択肢の増加を図り、さらには所属アーティスト以外の幅もより広げることで、安定的な収益確保を目指してまいります。また、所属アーティストのファンミーティングやツアーで培ったイベント企画運営ノウハウを「商品」と捉え、所属アーティスト以外のファンミーティング及びアーティストツアーのプロデュース提供や当社のメディアとの連携による相乗効果を図る等、多角的な事業展開を目指してまいります。

ファンクラブ事業では、アーティストコミュニティを形成して、ターゲットコンテンツに対して強いロイヤリティを持つユーザーを囲い込み、ファンクラブ・公式WEB・モバイル公式・SNS等のユーザー参加型コンテンツを強化するというコンセプトで運営・事業化してまいりました。今後は当社の放送事業同様、積極的な情報発信やSNSによるユーザーとの双方向コミュニケーションを図ることでニーズや属性を収集・分析し、多種多様なファン層へのアピールを強化するとともに、既存会員の退会抑制や新規会員の確保、コアファンの育成を図ってまいります。

イ) 著作権事業のビジネスモデルと多角化

著作権事業では、エンタテインメント市場の動向を中長期的視点で見据えながら、より優良なコンテンツを積極的に獲得し、TV放送・DVD化・VOD配信権等の販売により引き続き収益確保を目指してまいります。また、自社映像コンテンツの製作により、日本から韓国をはじめとしたアジア圏への著作権販売体制を構築し、当事業の多角化を目指してまいります。大型著作権ビジネスはともすれば事業投資リスクが高くなること、回収が長期化する可能性もあること等を常に認識して、適正な事業判断の下、製作委員会方式等によるリスク分散並びに販売力のあるビジネスパートナーの確保に努めてまいります。また、案件の進捗状況により四半期での収益及び資金の増減が大きくなるため、分散化した事業投資による収益の安定化も図ってまいります。

ウ) 各事業と物販事業・eコマースとの連携による付加価値の創出

さらに、著作権事業で獲得した話題性の高い大型ドラマの「KNTV」や「DATV」での日本初放送や、当社がマネジメントするアーティストをはじめとした人気アーティストのイベント等を映像化したプレミアム番組の放送によって高い付加価値を生み出し、他社とは一線を画した魅力あるチャンネルとしてアピール、視聴者の獲得を図ってまいります。

また、当社で運営するeコマースサイト（ショッピングサイト）でのDVDやグッズの販売に加え、さらに「KNTV」や「DATV」の各サイトや各ファンクラブサイトともeコマースサイトを連携させ、一気通貫でサービスを提供してまいります。

(3) 事業の進捗状況今後の見通し並びにその前提条件

当社は、中期経営計画の達成に向けて屋台骨である既存事業の業績改善に積極的に取

り組むとともに、一部業務の内製化による費用削減を進め、収益性の向上に努めてまいります。また、今後の成長に向けた専門的人材の採用やコンテンツ開発等の先行投資も行っております。

しかしながら、放送事業は現在取り組んでいる諸施策の成果により収益改善の傾向が見られるものの、大型案件の終了に伴うファンクラブ事業収入への影響によりライツ&メディアコミュニケーション事業（ファンクラブ事業）の収益改善には時間を要すると思われまます。

以上を踏まえた 2020 年 12 月期の業績につきましては、売上高 58 億円（前年同期比 5.1%減）、営業利益 41 百万円（前年同期比 42.5%減）。経常利益 42 百万円（前年同期比 43.0%減）、当期純利益 26 百万円（前年同期当期純損失 4 億 83 百万円）を予定しております。

なお、今後の日韓関係の動向や新型コロナウイルスの流行に伴う渡航規制などの影響を受けた場合、中期経営計画の見直しが必要となる可能性があります。

（４）見通しの算定根拠について

当社はエンタテインメント事業に特化しており、ユーザーの嗜好や流行の変化等によるアーティストやコンテンツの人気の動向が予測できないこと、また、イベント等の開催時期・規模・回数により収益の計上が予定と乖離すること等の事業の特性から、中期的な目標数値を公表することは困難であります。各事業の継続的且つ安定的な収益確保、アーティストとメディアとの連携による付加価値の創出、SM エンタテインメントグループとの連携強化等により、継続的な増収増益を目指してまいります。

以上